

「さすがに」の意味・機能の細分化について

周 世超（三重大学特任講師）

1 はじめに

評価の副詞「さすが」には、「さすが」「さすがに」「さすがは」「さすがの」「さすがだ」の五つの形式が見られる。「さすが」「さすがは」「さすがだ」は、いずれもおおむね肯定的な評価を示す。一方、「さすがの」には、「さすがの一手」のように行動の評価を表す用法と、「さすがの私も疲れた」のように能力の限界を表す用法がある。「さすがに」は、「さすがにないと思う」「さすがに頭がいい」「さすがに疲れた」「さすがに寒い」など、さまざまな文脈で用いられ、その意味と機能はきわめて多様である。従来の研究では、こうした多様性を一括して論じる傾向が見られる。本発表では、「さすがに」を研究対象として位置づけ、BCCWJ および朝日新聞クロスサーチから抽出した実例をもとに、「さすがに」が担う意味的・機能的差異を精査し、その用法を体系的に整理することを目的とする。

2 先行研究の問題点と本発表の立場

「さすがに」に関する研究は、渡辺(1997)、周(2017, 2019, 2023)などが挙げられる。渡辺(1997)では、現代語における「さすが」の基本的用法を、(一)「A はさすがに a だ」、(二)「A も B にはさすがに a(b)だ」、(三)「さすがの A も B には a(b)だ」の三つに整理している。このうちモデル(三)は「さすがの」のみを対象とするものであり、それ以外の表現は区別されず、「さすがに」も(一)と(二)に含まれる。アルファベットの対応関係で示すと、A は一定の素質や力量を備え、その結果として a という状態に至る。B は A に対抗する状況を表し、b はその素質・力量に基づく当然の帰結である。

渡辺(1997)に基づけば、「さすがに」には主として二つの用法がある。第一は、素質や力量の持ち主が、その能力にふさわしい結果を示す場合である。例えば、「彼は経験豊富な医者だけあって、さすがに判断が早い」のように、A(彼)の力量に基づき、予想どおり a(判断が早い)であることを示す。第二は、素質や力量の持ち主であっても、ある相手や状況に及ばない場合である。例えば、「彼もさすがに疲れには勝てなかった」のように、A(彼)の高い能力を前提としつつ、B(疲れ)に及ばず a(勝てなかった)という結果に至ることを表す。たしかに「さすがに」には、ある素質や力量に基づく当然の帰結という意味が含まれており、その結果は概ね、(1)順当に実現した場合と(2)そうでない場合とに大別できる。しかし、近年の用例には、渡辺(1997)の示した二分法では捉えきれないものも見られる。

- (1) プロアマ名人戦では4年前、昨年と2度対戦し、いずれもやられた。さすがに3連敗となると、ゆゆしき事態だ。名人は立ち上がりからアグレッシブにいった。(朝日夕刊「芝野名人、過激に仕掛け連敗止めた 逆コミのハンディ克服、三度目の正直 第17回プロアマ囲碁名人戦」2024年03月25日)
- (2) ただ、もし外資企業の傘下に入れば、従業員の雇用や取引先など広い範囲で影響が出る可能性がある。「日本の小売りトップの企業であり、さすがに拒否するのではないか」(金融関係者)との見方も強い。(朝日 2024年08月21日)

例(1)(2)には、「当然の帰結」と呼べる結果は存在しない。例(1)は「～となると」という今後の事態を前提とした推量的用法であり、例(2)は「～のではないか」という発話者の予測を示している。このことから、「さすがに」の現代的用法には、従来の「当然の帰結」には収

まりきらない多様な機能が見られ、新たな下位分類による再整理が求められる。

また、発表者自身も周（2017, 2019, 2023）において、「さすがに」について継続的に検討を行ってきた。周（2017）では、「さすが」の諸表現を単文と複文に分け、それぞれにおいてどのような形式で現れるのかを明らかにし、さらに各場合における評価性の在り方を考察している。

さらに、周（2019）は、「さすが」と「さすがに」の役割分担に着目し、「さすが」を肯定的評価を示す形式として位置づける一方、「さすがに」を「予想通り」の意味を表すものとして整理している。このような整理は、両者を区別するうえで有効であるが、「さすがに」にも評価的な用法が存在することは、以下の用例から確認できる。

- (3) 卓球はクロスに打つ方が簡単で、反射的にクロスを使いたくなるもの。徹底してストレートを打てた2人は、さすがにレベルが高い。(朝日2024年08月13日)
- (4) さすがに環境関係の担当課だけあって、みんな生き物を見つける目が鋭い。(朝日2024年10月24日)

例(3)(4)の場合、「さすがに」は「レベルが高い」「目が鋭い」といった評価的形容詞と結びつき、話者が自身の経験に基づいて対象を評価していると考えられる。そのため、これらの用例を単に「予想通り」を表すものとみなすことは認めがたい。

さらに、周（2023）は、動詞述語を修飾する場合の「さすがに」について、修飾される動詞の特徴に基づき、その使用条件を検討している。その結果、「さすがに」が文脈において「対立」を要請する傾向をもつことを指摘し、これにより「さすがに」の核心的意味は「対立」にあると述べている。ただし、具体的な意味の区分については言及されていない。

以上のように、これまでの研究はいずれも示唆に富むものであるが、実際の使用例を精査すると、渡辺（1997）のいう「当然の帰結」、周（2019）のいう「予想通り」、あるいは周（2023）のいう「対立」だけでは十分に説明しきれない意味的差異が確認される。

そこで本発表では、BCCWJ および朝日新聞クロスサーチから抽出した「さすがに」の用例¹を対象とし、その意味を「予想」「評価」「対立」などの要素を含むものと捉える。具体的な文脈においては、これら複数の意味のうち、ある特定の意味が前景化し、他の意味が背景化すると考えられる。本発表では、用例観察の結果に基づき、帰結用法、評価用法、判断用法、予測用法、対比用法の五つに細分化して捉えることを提案する。以下では、それぞれの意味用法について検討する。

3 帰結用法

本発表でいう「帰結用法」とは、「予想どおりの結果となった」という状況によって生じた変化を表すものである²。そして「さすがに」の帰結用法は、心理の帰結、行動の帰結、状況の帰結と自然の帰結の四つに分けられる。

まず、感情動詞、感覚動詞、思考動詞の過去形と意味関係を結んでいる場合、心理の帰結を表している。下記の例(5)～(8)はその裏付けである。

- (5) 真夜中過ぎ、道路に立って部屋を見上げていた男と目が合ったときには、さすがに泣きそうになりました、と恵里は言った。(三雲岳斗『少女ノイズ』2007³)

¹ 本発表は、BCCWJ から抽出した 3,070 例、朝日新聞（2015 年から 2024 年）の 10 年間にわたる 2,747 例、発表者独自に収集した 5,138 例、合計 10,955 例を研究対象とする。

² 「帰結用法」とは、渡辺（1997）の考察から「帰結」という語を借用したものであり、周（2019）でいう「予想どおり」を反映した用法である。

³ 本発表における用例の出典は、現代日本語書き言葉均衡コーパスから抽出したものについては「BCCWJ

- (6) 7月には、再び左上腕を骨折。さすがにへこみました。(朝日 2024年11月13日)
- (7) いっしょに走ったので、さすがにつかれた。(BCCWJ 書籍)
- (8) AI(人工知能)を巡る議論がかまびすしい。さすがに冷や水を浴びせたくなってきた。(朝日 2024年01月13日)

例(5)～(8)の場合、「さすがに」はいずれも心理的変化を表す述語と結びついている。例(5)の「泣きそうになりました」は驚きや恐怖といった感情の表出、例(6)の「へこみました」は落胆という感情の表出を示す。例(7)の「つかれた」は身体的感覚の変化を通じた心理的変化を表し、例(8)の「冷や水を浴びせたくなってきた」は思考動詞に近い形で心情の変化を示している。これらはいずれも、状況の推移に伴って予想どおりの心理的変化が生じたことを表しており、「さすがに」が心理の帰結を示す用法である。

また、「さすがに」が動作動詞と結びつく場合には、行動の帰結⁴を表す。

- (9) 「小学校を出たらすぐ入門する」と言い出したときは、さすがに祖父が止めたという。(朝日 2024年02月01日)
- (10) 続いて頭、胸、股間と、当て身と蹴りを繰り出しながら奥田も後退する。(三好京三『琥珀の技 三船十段物語』1985)
- (11) 地元で生まれ育ったリウカ・ザフィアさん(71)は「私は孫もいるおばあちゃん。マッチングアプリはさすがに使っていない」と笑う一方、「若いときは紙の地図を見て運転していた。伝統的な生活に戻っただけよ」と話す。(朝日新聞 2024年10月03日)
- (12) さすがに他人の撮影現場には割り込まないでくださいね。(朝日 2024年11月29日)

例(9)～(12)の場合、「さすがに」は動作動詞と意味関係を結んでいます。例(9)(10)は、それぞれ「止める」「後退する」という予測された行動が実際に行われたことを示しており、行動の帰結を表す。一方、例(11)(12)はそれぞれ「使っていない」「割り込まない」という予測された行動をあえて取らなかつたことを示しており、行動抑制の帰結を表している。

さらに、「さすがに」は状況の帰結を表す場合もある。状況の帰結とは、具体的な心理変化や動作の発生を伴わず、状況全体が予想通りの変化を遂げたことを示すものである。

- (13) 駅周辺はイベントで終日にぎわった。(中略)一方、農地に囲まれた同駅には課題もある。タクシー運転手の男性は「今日はさすがに人がいるが、なにせ田舎のことなので……」。(朝日朝刊 2024年03月17日)
- (14) 開幕まで500日を切った昨年11月末ごろから、各国もさすがに煮詰まってきた。(朝日 2024年04月13日)
- (15) さすがに、その後、自民内でも慎重論が相次ぎ、反対会派も含めた「全会派の参加」をめざす方向に転じたようだが、「改憲ありき」で突き進めば禍根を残すだけだろう。(朝日 2024年06月12日)

例(13)～(15)の場合、「さすがに」は状況の帰結を表している。例(13)では、イベントが開催されているため駅周辺に人がいるという、状況として当然の変化が述べられており、例(14)では、万博の開幕が近づいているため各国の準備が「煮詰まってきた」という予想どおりの進展が示されている。さらに、例(15)では、情勢の変化を受けて自民党内で慎重論が相次ぎ方向転換したという、政治的状況の自然な推移が表されている。これらはいずれも、主体の動作や感情ではなく、状況全体の変化を描く点で「状況の帰結」を示す用法である。

書籍」と表記し、発表者が独自に収集したものについては、作者名・書籍名・年代を明記する。

⁴ 本発表でいう行動の帰結とは、予測された行動が実際に行われた場合、あるいは行われなかつた場合を指す。

さらに、自然現象を表す動詞と意味関係を結ぶ場合、「さすがに」は自然の帰結を表す。この用法では、人間の意志や感情とは無関係に、時間の経過や季節の移り変わりなどによって生じる自然な変化が、予測どおりの結果として描かれる。

(16) 立冬を過ぎて、さすがに朝晩は冷え込んできた。空も澄んできた。(朝日 2024年11月19日)

(17) 十一月も半ばになって、さすがに蝶や蜻蛉を見かけることが少なくなってきた。(朝日 2024年11月12日)

(18) 「さすがに千年前の式部の建物は残っていません。でも、当時の空気感はあります」と執事長の町田亨宣さん(46)は話す。(朝日朝刊 2024年10月19日)

例(16)では、立冬を過ぎたために朝晩が冷え込んできたという季節的変化が述べられ、例(17)では、十一月も半ばになったことで蝶や蜻蛉を見かけなくなったりという自然の推移が示されている。また、例(18)では、千年という長い年月を経た結果、式部の建物が残っていないという当然の帰結が示されており、これも自然の経過に基づく変化を表している。これらはいずれも、人間の行為や判断によらず、自然の必然的な成り行きを示す「自然の帰結」である。

以上のように、「さすがに」の帰結用法は、心理の帰結・行動の帰結・状況の帰結・自然の帰結の四種類に分けられる。これらに共通するのは、いずれも出来事や変化が「予想どおりになった」という当然の帰結を示している点である。すなわち、「さすがに」は、話者の予測や常識に照らして想定された結果が現実に生じたことを示す際に用いられ、「予想どおりになった」という意味が前景化し、他の評価的・感情的な意味は背景化するのが特徴である。

4 評価用法

「さすがに」には、評価を表す用法⁵もある。この用法は、人物などを評価する場合、状況全体を評価する場合、あるいは特定の行動を評価する場合に分けられる。

(19) 徹底してストレートを打てた2人は、さすがにレベルが高い。(朝日朝刊「(加藤美優の目)4年後、対等に戦うためには 卓球 パリ五輪」2024年08月13日)

(20) <山口監督(湘)> 「首位はさすがに抜け目ない相手だった。前半が勉強になって、後半にやるべきことを表現してくれた」(朝日 2024年10月20日)

(21) 「さすがに世界に一本しかない傘だ。」(吉村達也『観音信仰殺人事件』1997)

例(19)では、卓球選手2人の技術水準の高さに対する人物評価が示されている。例(20)では、「首位は抜け目ない相手だった」という発言から、相手チームの実力や戦略性に対する状況評価が表されている。さらに、例(21)では、「世界に一本しかない傘」という特異な対象に対して価値を認める対象評価がなされている。これらはいずれも、「さすがに」が話し手の感嘆や肯定的な評価を含意する用法である。

また、「だけのことはある」「だけあって」という文型と共に起する場合、「さすがに」は人物などへの評価を表している。

(22) 妙にうまい絵だった。アスファルトに絵を描いたりする子供は今時ちょっと珍しいのではないか。さすがにおじいちゃん子を自称するだけのことはある。(五十嵐貴久『土井徹先生の診療事件簿』2008)

⁵ 本発表でいう「評価用法」は、渡辺(1997)のモデル(一)に当たる、話し手の評価的判断を伴う点において、他の用法とは区別されるものである。

(23) この短期間でここまで伸びるとは。流石に神童と呼ばれただけのことはある。 (井上堅二『バカとテストと召喚獣 02』2007)

(24) 柳田は、さすがに高級官僚の出身だけあって、万事にそつがなかった。(井沢元彦『GEN『源氏物語』秘録』1995)

例(22)では、「おじいちゃん子を自称するだけのことはある」と述べることで、その子どもたちの絵のうまさが家庭的背景に裏づけられたものであることを評価している。例(23)では、「神童と呼ばれただけのことはある」として、卓越した成長ぶりを肯定的に評価している。さらに、例(24)では、「高級官僚の出身だけあって」という句が、柳田の有能さや立ち振る舞いの的確さを裏づける形で用いられている。これらの例に共通するのは、「さすがに」が社会的評価や期待に即した人物像を強調し、その卓越性を認める機能を果たしている点である。

また、行動を評価する用法も見られる。この場合の「さすがに」は、行動や判断に対して話し手が妥当性や度合いなどを評価する働きを持つ。

(25) 佐藤は「△6四歩も考えたけれど、さすがに渋すぎると思って」。(朝日 2024年11月24日)

(26) これらは市民らを「元気づける」ことを目的に掲げた事業だ。観光産業などの下支えにもなるし、いちがいに批判できないという意見もある。とはいって、さすがにやり過ぎではないか。(朝日 2024年04月25日)

(27) 白32に黒34はさすがに澄ましそぎか。黒33とハネたのは白Aなら黒35のつもり。張は激しく白34から36を選ぶ。(朝日 2024年03月01日)

例(25)では、「渋すぎる」と述べることで、慎重すぎる手を避けた判断を評価しており、行動に対する妥当性の判断が示されている。例(26)では、「やり過ぎではないか」との発言から、行為の度合いに対する否定的評価が表されている。さらに、例(27)では、「澄ましそぎか」との表現によって、囲碁の一手に対する技術的・感覚的な評価が示されている。これらの例はいずれも、「さすがに」が行動や判断の程度をめぐる話し手の評価的立場を明示する用法である。

また、状況を評価する用法もある。この場合の「さすがに」は、出来事や環境などの状況全体に対して、話し手がその程度や異常さを評価する働きを持つ。

(28) こまめに水分を取るようにしているが、自宅を訪れた50代の長女には「さすがに暑すぎ」と、指摘されたという。(朝日 2024年06月27日)

(29) 北海道の空も広かったが、今の時期の日没は午後4時ごろ。さすがに日が短すぎる。(朝日朝刊「(さがん記写)順位では測れぬ美ノ佐賀県」2024年11月17日)

(30) リハーサルをのぞいても、これはさすがにヤバいぞという感じでした。(朝日 2024年03月27日)

例(28)では、長女の発言「さすがに暑すぎ」が示すように、気温の高さという状況が常識的な許容範囲を超えていて評価されている。例(29)では、「日が短すぎる」という表現によって、季節的な日照時間の短さが実感的・対比的に評価されている。さらに、例(30)では、「これはさすがにヤバいぞ」という発話によって、予想を超えた状況の異常さや切迫感が評価的に表現されている。これらの例はいずれも、状況の程度や変化に対する話し手の感覚的・主観的な評価を示す「状況の評価」の用法である。

以上のように、「さすがに」の評価用法は、人物・行動・状況といった多様な対象に対して話し手の主観的判断を示すものである。これらに共通するのは、予測や期待に照らして「優れている」「度を超えてる」などの評価的判断が前景化している点である。すなわち、「さすがに」は、対象の性質や行為の程度を常識的基準と比較し、その結果を肯定的または

否定的に評価する機能を担っている。

5 判断用法

また、「さすがに」には、話者の判断を示す用法がある。この用法では、明確なプラス・マイナスの評価を伴わず、話者の常識や一般的知識に基づいた判断を表す。ここには、常識的判断を示す場合と、否定表現を伴って判断を限定的に述べる場合がある。

(31) 金 さすがにその日のうちに退社とはいかないわけだ。(朝日 2024 年 09 月 28 日)

(32) さすがに、古くから一般的だったとは言えません。戦時中の短歌雑誌に「ごく短い感想」の意味で「瞬感」が使われていますが、まれな例です。(朝日 2024 年 06 月 22 日)

(33) 「ズキニー」という語形はさすがに少数派です。(朝日 2024 年 02 月 24 日)

例(31)～(33)は、社会的・経験的常識に基づく判断を示しており、例(31)では「その日のうちに退社とはいかない」、例(32)では「一般的だったとは言えない」、例(33)では「少数派です」といったように、現実的な見通しや分布を常識的に判断している。

一方、次の例(34)～(36)は、否定形を伴うことで、想定される可能性を控えめに否定している。

(34) さすがに「軟らかくなつた雪対策」までは万全ではなかつた。(朝日 2024 年 03 月 06 日)

(35) 金 さすがに刑事责任は問われないんだね。(朝日 2024 年 05 月 18 日)

(36) 「カレーうどんって、だしがはねるでしょ。大きい器だとあまりその心配がない。あと、器を逆さにすると稻むらに見える。さすがに逆さにする人はいないけどね」(朝日 2024 年 05 月 06 日)

例(34)では「そこまでは万全ではなかつた」、例(35)では「刑事责任までは問われない」、例(36)では「逆さにする人はいない」と述べられており、いずれも「完全に不可能」と断定するのではなく、常識的範囲での限定的な否定を行っている。これらは、話者が現実的、常識的な観点から判断の程度を調整して表す「限定的判断」の用法といえる。

以上のように、「さすがに」の判断用法は、話者が自らの常識や経験に基づいて状況を現実的に見極める際に用いられるものである。ここでは、他の用法のような感情的・評価的な側面は背景化し、「常識的に考えればそう（あるいはそうではない）」という合理的判断の意味が前景化している。すなわち、「さすがに」はこの用法において、社会的・経験的知識に裏づけられた妥当な判断や、可能性を限定的に否定する際の語用的指標として機能している。

6 予測用法

さらに、「さすがに」には、予測そのものを示す用法がある。予測用法は、「当然の帰結」とまではいかず、推測や可能性を表すモダリティと共に、話者の予測的判断を示すものである。そのため、結果としての変化を表す帰結用法とは区別される。この予測用法はさらに、行動の予想と状況の予想の二つに分けられる。

まず、行動の予想を表す用法として、以下の例(37)～(39)が挙げられる。これらの例では、話者が他者の行動や反応を予測して述べており、「さすがに」がその判断の根拠となる常識を示している。

(37) 「日本の小売りトップの企業であり、さすがに拒否するのではないか」（金融関係者）との見方も強い。(朝日 2024 年 08 月 21 日)

(38) 「さすがに今度水没したら、この部分は持ちこたえられないのでは」。（朝日 2024 年 10 月 23 日）

(39) さすがに相手をにらみつけてギラギラすることはありませんが、頻繁に対戦表を見て自分を鼓舞するのです。（朝日 2024 年 05 月 17 日）

例(37)では、「拒否するのではないか」と述べることで、大企業としての立場や判断基準を踏まえた行動予想が示されている。例(38)では、「持ちこたえられないのでは」との発話により、状況に応じた人為的対応の限界を見込んだ行動の予測が表されている。さらに、例(39)では、「にらみつけてギラギラすることはありませんが」と述べることで、社会的場面における行動の抑制が予測され、行動の常識的範囲を示している。これらはいずれも、「さすがに」が行動の可能性や制約を予測的に判断する機能を果たす用法である。

次に、状況の予想を表す用法として、以下の例(40)～(42)が挙げられる。これらの例では、話者が将来の状況や社会的な状態について推測的述べており、「さすがに」がその判断の根拠となる常識的・経験的知識を示している。

(40) いかに除菌志向の社会でも「認知の障害を持つ者は、予防拘禁して隔離しろ」とまでも言う人は、さすがにいないでしょう。（朝日 2024 年 01 月 24 日）

(41) 引退するんだったら振り飛車をやってからにしようと。さすがにそんな絶望はもっと先だと思っていましたけど……」（朝日 2024 年 03 月 23 日）

(42) さすがに10 年後の福井県に私は存在しないと思っているので、その頃にはこうなって欲しいという願いを込めて書かせていただきます。まさにローカルネタ。（朝日 2024 年 04 月 18 日）

例(40)では、「いかに除菌志向の社会でも…と言う人はいないでしょう」と述べることで、社会常識から見て極端な主張は現れないだろうという状況予想が表されている。例(41)では、「そんな絶望はもっと先だと思っていましたけど」と述べることで、予想より早く訪れた事態への驚きを示し、未来に対する予測のずれが語られている。さらに、例(42)では、「10 年後の福井県に私は存在しないと思っている」と述べることで、時間の経過に基づく自己の不在という未来状況を予測している。これらの例はいずれも、話者が現実的・常識的な観点から将来の状況を推測する「状況の予想」の用法にあたる。

以上のように、「さすがに」の予測用法は、話者が常識的知識や経験に基づいて、行動や状況の展開を推測する際に用いられるものである。この用法では、「予想どおりの結果」という既定の事実を述べる帰結用法とは異なり、「こうなるだろう」「そうはならないだろう」という予測そのものが前景化している点に特徴がある。すなわち、「さすがに」はこの用法において、話者の現実的判断や社会的常識に裏づけられた予測的モダリティとして機能している。

7 対比用法

最後に、「さすがに」には対比用法が見られる。構文的には、「さすがに」は逆接構文の中で前件を受け、後件における限定や例外を示す位置に置かれることが多く、文全体に対比構造を形成する役割を担っている。この用法では、明示的または暗示的な比較対象が存在し、「さすがに」に本来に含まれる「評価」や「予想通り」といった意味が背景化し、「対比」の意味が前景化する点に特徴がある。下記の例(43)～(45)はその裏付けである。

(43) 有坂の家は広くて何でも揃っていたが、さすがにホットケーキの材料までは置いていなかったんだ。（BCCWJ 書籍）

(44) 東京は、まだ初冬の感じだったが、さすがに秋田は、もう、冬の盛りだった。（BCCWJ

書籍)

- (45) あいにくの小雨だったが、船舶部品メーカーの社員、角田（すみだ）航太さん（35）は「雨でも壊れないんです。台風はさすがに無理ですが」。（朝日 2024年 05月 31 日）

例(43)では、「何でも揃っていたが、ホットケーキの材料までは置いていなかった」という逆接構文の中で、「さすがに」が前件の豊かさを受け、後件でその限界を示しており、豊かさと不足の対比が表されている。例(44)では、「東京」と「秋田」という二つの地域を比較し、季節の進行の違いを際立たせる構文的対比が形成されている。さらに、例(45)では、「雨でも壊れない」と「台風では無理」という逆接的関係の中で、「さすがに」が条件の限界を示している。これらの例はいずれも、「さすがに」が逆接構文や対比的文脈の中で、程度差や限界を明示し、文全体に対照的な意味関係を形成する機能を担っている。

8 まとめ

本発表では、「さすがに」の意味の細分化を試み、「さすがに」には帰結用法、評価用法、判断用法、予測用法、対比用法という五つの用法があることを明らかにした。

- ① 帰結用法では、心理・行動・状況・自然の変化が表され、「予想どおりになった」という当然の帰結が前景化する。
 - ② 評価用法では、人物・行動・状況を常識的基準と比較し、優劣や度合いに対する評価が前景化する。
 - ③ 判断用法では、感情や評価を背景化し、常識にもとづく合理的判断が前景化する。
 - ④ 予測用法では、推量表現と共に、「こうなるだろう／そうはならないだろう」という予測そのものが前景化する。
 - ⑤ 対比用法では、逆接構文の中で前件を受け、程度差や限界を示す対比が前景化する。
- また、これらの各用法がいつの時代に生じたのか、さらにどの用法が時代によって典型化あるいは衰退したのかを明らかにし、「さすがに」の意味変化と機能拡張の歴史的過程を考察することを、今後の課題としたい。

参考文献

- 周世超 (2017) 「『さすが』の意味・機能に関する考察」『鹿児島国際大学大学院学術論集』9: 33-42.
- 周世超 (2019) 「『さすが』と『さすがに』の役割分担について」『日本語文法』19(2): 83-99. 日本語文法学会.
- 周世超 (2023) 「『さすがに』の意味・用法と使用条件について—動詞述語を修飾する場合を中心にして」『日中言語対照研究』25: 61-75.
- 渡辺実 (1997) 「難語『さすが』の共時態と通時態」『上智大学国文学科紀要』14: 3-30.

付記

本研究は、JSPS 科研費 JP25K22978 の助成を受けたものである。